

外為マンスリーレビュー

2018/05/02

ドル高地合いでクロス円に方向感出づらい

通貨ペア	基調		ページ数
ポンド/円	⇒	10日のスーパー・サズデーに注目 予想レンジ: 145.000~152.500円	2-3
豪ドル/円	⇒	RBAの金融政策は焦点にならず 予想レンジ: 79.500~84.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



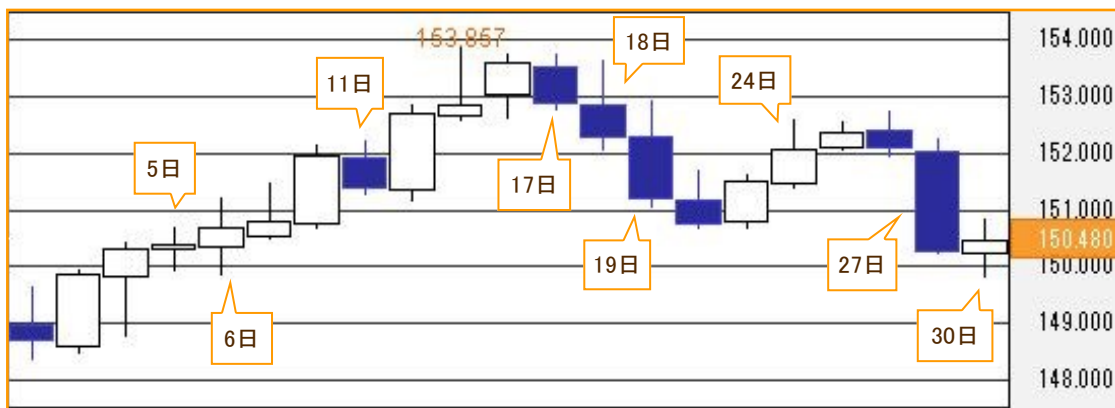
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ポンド/円 4月の推移

GBP/JPY

4月のポンド/円相場は148.386～153.857円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%上昇（ポンド高・円安）した。英中銀（BOE）がインフレレポートを公表する5月の金融政策委員会（MPC）で0.25%の利上げに動くとの期待が高まる中、13日には153.857円まで上値を伸ばして2月8日以来の高値を付けた。しかし、17日の英12-2月週平均賃金や翌18日の英3月消費者物価指数が予想を下回る伸びにとどまった事から利上げ期待が後退。19日のカーニーBOE総裁の発言や27日の英1-3月期国内総生産（GDP）・速報値が止めを刺す格好となり、利上げ観測はほぼ消滅。なお、英金利デリバティブ市場における5月利上げの確率は16日時点で一時96.2%まで上昇していたが、30日には18.8%まで低下した。そうした中、ポンド/ドルは下落（ポンド安・ドル高）に転じており、ポンド/円が上昇を維持したのは円安効果によるものだったと言える。



四本値

OPEN	149.004
HIGH	153.857
LOW	148.386
CLOSE	150.470

5日	英3月サービス業PMIは51.7と予想（54.0）や前回（54.5）を大きく下回った。欧州連合（EU）離脱を問う国民投票が行われた翌月である2016年7月以来の低水準という事もあって、ポンドが売られる場面もあった。
6日	米3月雇用統計の冴えない結果や、米中貿易戦争への懸念からドル売りが強まるとポンド/ドルが上昇。ポンド/円もこれに連れ高したが、米国株が下げ幅を拡大すると円買いが強まり伸び悩んだ。
11日	英2月鉱工業生産は前月比+0.1%と予想（+0.4%）を下回り、前回（+1.3%）から大幅に低下。これを受けて対ドルではポンドが弱含んだものの、ポンド/円への影響は限られた。しかし、トランプ米大統領が「ロシアは準備せよ。ミサイルがシリアに来る」とツイートすると米長期金利やNYダウ平均先物の急落を受けてポンド/円にも下落圧力がかかった。
17日	英12-2月の失業率（ILO方式）は4.2%と、1975年3-5月以来の水準に改善し、市場予想（4.3%）を下回った。一方、英12-2月の週平均賃金は前年比+2.8%と市場予想（+3.0%）を下回る伸びにとどまった。これをきっかけにポンドに調整が入った。
18日	英3月消費者物価指数は前月比+0.1%、前年比+2.5%と市場予想（+0.3%、+2.7%）を下回り、前回（+0.4%、+2.7%）から減速。英3月生産者物価指数は前年比+2.4%と予想（+2.3%）を上回ったが、英3月小売物価指数は前年比+3.3%と予想（+3.5%）を下回った。これらを受けて5月利上げ観測が後退すると152.00円台まで下落した。
19日	英3月小売売上高（自動車燃料含む）が前月比-1.2%と予想（-0.6%）を下回り、前回（+0.8%）から低下するとポンド売りが強まった。その後、武田薬品工業がバイオ医薬品大手シャイアー社に1株当たり約46.5ポンドの買収提案を行ったと報じられるとポンドに買い戻しが入った。ところが、カーニーBOE総裁が「今年1年間に行動できる他の複数の会合がある事を意識しながら決定を下す事になるだろう」と述べた事が5月利上げ見送りの示唆と受け止められポンドが急落した。
24日	武田薬品工業によるシャイアー社買収案の暫定合意が近いと報じられた事を受けて、買収に絡むポンド買い・円売りフローの思惑からポンド/円が上昇した。
27日	英1-3月期国内総生産（GDP）・速報値が前年比+1.2%にとどまり、市場予想および前回値（+1.4%）を下回るとポンド売りが活発化した。
30日	前週末29日にラッド英内相が辞任した事を受けて欧州市場でポンドが下落する場面があった。ラッド内相は、第2次大戦後、ジャマイカなど旧植民地から渡英してきた移民の子供らを不法移民と決めつけ、国外退去を通告するなどした不祥事の責任を取った。ラッド氏はメイ英首相の信頼が厚かっただけに、政権運営の痛手になるとの見方が広がった。ただ、月末のロンドンフィクシングに向けたポンド買い観測などから持ち直した。

GBP/JPY

日経平均

FTSE100

英2年債利回り

英10年債利回り

OPEN	21441.57
HIGH	22495.56
LOW	21056.02
CLOSE	22467.87

OPEN	7056.61
HIGH	7546.16
LOW	6971.75
CLOSE	7509.30

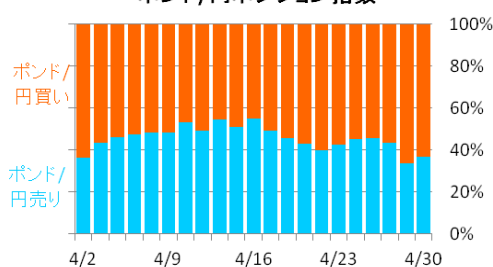
OPEN	0.823%
HIGH	0.941%
LOW	0.762%
CLOSE	0.776%

OPEN	1.350%
HIGH	1.571%
LOW	1.331%
CLOSE	1.418%

4月のポジション動向

5月の英国の注目イベント

ポンド/円ポジション指数



- ・4月英製造業PMI(1日)
- ・4月英建設業PMI(2日)
- ・4月英サービス業PMI(3日)
- ・3月英鉱工業生産(10日)
- ・3月英貿易収支(10日)
- ・BOE政策金利発表(10日)
- ・BOE議事録(10日)
- ・BOE四半期インフレレポート(10日)
- ・4月英雇用統計(15日)
- ・4月英消費者物価指数(23日)
- ・4月英生産者物価指数(23日)
- ・4月英小売物価指数(23日)
- ・4月英小売売上高(24日)
- ・1-3月期英GDP・改定値(25日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

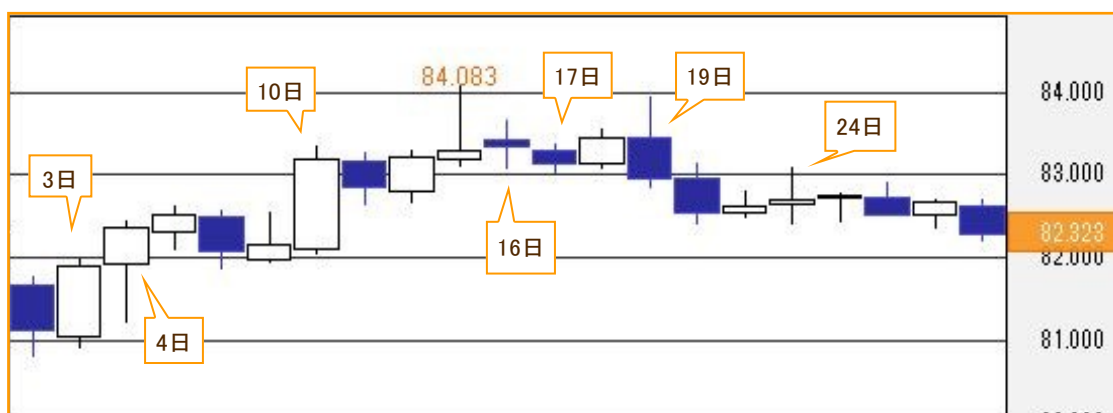
5月の英中銀(BOE)スーパー・サズデー(10日)は、利上げ期待がほぼ消滅したとはいえ注目を集めそうだ。4月19日に、カーニー総裁は「今年1年間に行動できる他の複数の会合がある事を意識しながら決定を下す事になるだろう」と述べて、5月利上げを見送る可能性を示唆。これを受けて市場の利上げ織り込み度合いは10%台に低下している。もはや、BOEが強引に利上げに踏み切る理由は見当たらない状況と言えそうだ。もっとも、利上げ見送りはすでに市場に広く織り込まれている。したがって、スーパー・サズデーに対するポンドの反応は、「次回利上げの時期」に左右される事になるだろう。5月2日時点で6月(21日)利上げの確率は25%程度、8月(2日)でも50%程度にとどまっており、インフレレポートで示される見通しやカーニー総裁の会見次第で大きく変化しそうだ。4月中旬以降のポンド安基調が継続するのか、あるいは下げ止まりから反発に向かう目はあるのか、5月のポンド/円相場は10日のBOEスーパー・サズデーがポイントになりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 145.000-152.500円)

豪ドル/円 4月の推移

AUD / JPY

4月の豪ドル/円相場は80.836~84.083円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の小幅な上昇(豪ドル高・円安)となった。米中を中心とする貿易摩擦問題や、シリアや北朝鮮などの地政学リスクに対する懸念は和らいだが、豪ドル/円の上昇は鈍かった。豪ドル自体にネガティブ材料があったわけではないが、中盤以降に米ドルが全面上昇したため、4月の豪ドル/米ドルは約2.0%下落した。一方、円も米ドルに対して約2.8%下落した。米ドルを軸に、豪ドルと円が同じ方向に動いた格好で、円のほうが下落率が大きかったため、その分だけ豪ドル/円が上昇した事になる。



四本値

OPEN	81.687
HIGH	84.083
LOW	80.836
CLOSE	82.300

3日	豪中銀(RBA)は予想通りに政策金利を1.50%に据え置いた。同時に発表した声明も「政策据え置きは持続的経済成長と合致している」「インフレ率はしばらく低水準にとどまる可能性」「豪ドル上昇ならインフレと経済の伸び鈍化の恐れ」などと、前回とほぼ同内容であった。
4日	豪2月小売売上高は前月比+0.6%と市場予想(+0.3%)を上回り、前月(+0.2%)から伸びが加速。これを受けて豪ドルは買いが優勢となった。ただ、中国が米国の対中関税への報復措置として米輸入品106品目に追加関税を課すと発表すると米中貿易戦争懸念が高まり豪ドルは反落。ところが、米国家経済会議(NEC)のクドロ一次期委員長の楽観発言などを受けて米国株が急速に持ち直すと再び豪ドル買いが強まった。
10日	習近平・中国国家主席がボアオ・アジアフォーラムで演説。「対話が問題解決の方法」「世界は自由貿易を推進すべき」「中国は供給面の改革を強化する」「中国は他国を脅かさず、既存の世界秩序を損なうことはない」「中国は今年、自動車輸入関税を引き下げる」「中国は輸入を拡大するだろう」などと発言した事を受けて米中貿易摩擦を巡る懸念が後退すると豪ドル高・円安が進んだ。
16日	13日に行われた米英仏によるシリアへの共同軍事攻撃は「1回限り」のもので、紛争がこれ以上エスカレートする事はないとの見方からオープン直後は豪ドル/円に買いが入った。しかし、米露の対立懸念などから「アク抜け」には至らず、円売りは早々に収束。安倍政権の支持率低下なども円売りを抑制する要因になった模様。
17日	RBAが4月理事会の議事録を公表。「目先、政策変更をする強固な理由はないとの見方で一致」としながらも「現在の状況を踏まえると、次の動きは利上げの見方で一致」とした。また、「今年の経済成長は、2017年を上回る見込み」とした一方で、「インフレ率は当面低水準が続く見通し」とした。
19日	豪3月雇用統計は失業率は5.5%と予想通りとなったが、就業者数が0.49万人増と予想(2.00万人増)を下回った。また、就業者数の内訳でも正規雇用者数が1.99万人減少していた事から豪ドル売りが強まった。
24日	豪1-3月期消費者物価指数は前年比+1.9%と市場予想(+2.0%)を下回る伸びにとどまった。ただ、RBAが重視する基調インフレ率が前年比+1.95%となり、予想(+1.85%)を上回るとともに前回(+1.90%)から加速した。

AUD/JPY

日経平均

NYダウ平均

上海総合指数

豪10年債利回り

OPEN	21441.57
HIGH	22495.56
LOW	21056.02
CLOSE	22467.87

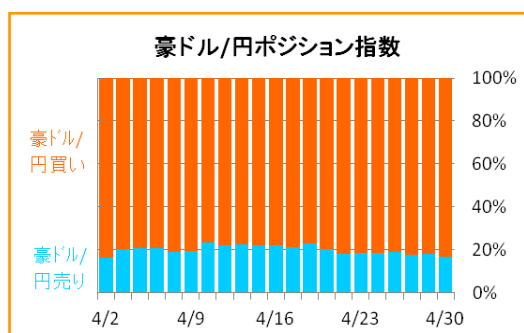
OPEN	24076.60
HIGH	24858.97
LOW	23344.52
CLOSE	24163.15

OPEN	3169.779
HIGH	3220.845
LOW	3041.625
CLOSE	3082.232

OPEN	2.601%
HIGH	2.891%
LOW	2.551%
CLOSE	2.769%

4月のポジション動向

5月の豪州・中国のイベント



- ・ RBAキャッシュレート (1日)
- ・ 4月中国財新製造業PMI (2日)
- ・ 3月豪貿易収支 (3日)
- ・ 3月豪住宅建設許可件数 (3日)
- ・ 4月中国外貨準備高 (7日)
- ・ 3月豪小売売上高 (8日)
- ・ 4月中国貿易収支 (8日)
- ・ 4月中国消費者物価指数 (10日)
- ・ 3月豪住宅ローン件数 (11日)
- ・ RBA議事録 (15日)
- ・ 4月中国鉱工業生産 (15日)
- ・ 4月豪雇用統計 (17日)
- ・ 4月豪住宅建設許可件数 (30日)
- ・ 5月中国製造業PMI (31日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

5月1日に発表された豪中銀 (RBA) 声明は、4月声明の「焼き直し」と言えるほどの内容で、新味に乏しかった。強い変更点を挙げれば、2018年と2019年の経済成長が3%を超える見込みとした部分であろう。そうした前向きな見方も交えつつ、RBAは次の一手が利上げになるとの見通しを維持したが、次の一手を打つ時期はかなり先になるであろうとの見通しも維持した。こうした経緯から、豪ドル相場においては当面、豪州の金融政策が焦点になる事はなさそうだ。なお、豪金利デリバティブ市場が織り込む利上げ確率は、6-9月までが10%未満であり今年12月時点でも30%程度にとどまっている (5月2日時点)。こうした中、5月の豪ドル/円も外部要因頼みの展開となる可能性が高く、米中の通商交渉や米朝首脳会談 (6月初頭までのどこかで開催される予定) の行方などが注目されよう。また、5月に入り、米国の長期金利が再び上昇の兆しを見せている。米株式市場は2月以降の金利上昇局面で幾度か「予行演習」を行っているとはいえ、米企業決算の出尽くし感と相まって株価が大きめに調整する事がないか注意しておく必要があるだろう。(神田)

(予想レンジ : 79.500-84.500円)